

夢を叶えた愛着の家に住まう

理想の 豪邸 拝見

豪邸に傑出したものは、理想を追求し夢を叶えたいという思いの深さではないでしょうか。住まい手のかたがたが志回する、暮らしへの夢から引き出されたのは、私たちの想像を遙かに超えた、唯無類の究極の住まいでした。幸せな記憶を有る場、歳月とともに愛着を積む際の豪邸をご紹介します。

天井高3.55は、広さ約40畳の大空回りリビングルーム。高窓から柔らかい光が降り注ぐ。正面奥は、アウトドアキッチンを備えた中庭。十数種類の熱帯魚が泳ぐ水槽はオリジナルで製作。

都心に遊ぶ家

〇邸 (東京都)

UrbanLife

大通りから一本入った商業地と住宅地の境の、
約三〇平方メートルの敷地に建つ、地下二階、地上六階の邸宅。
ご夫妻とお嬢さま、二人家族のお住まいですが、
ご近所では「集合住宅が建つ」と思われていたといいます。
大型のエレベーターが二、七層には、
「自分の家で何をしたいか」という住み手の明確な希望が
適切に、そして優雅に反映されています。
一階に玄関と駐車場、二階にリビング、三、四階は私室。
五階にライベントジム、六階には、なんと露天風呂が。
そして地下二階には、さらなる驚きの空間が広がります。

正面に薪の暖炉、左壁に2つの
バイオエタノール暖炉を備えた
リビングルーム。愛犬のルイチ
ャンが顔を覗かせているのは、
ガラス壁でリビングルームとつ
ながる上階の書斎スペース。

“したいこと”をすべて家の中に

地下1階に設けられた、檜の一枚板のすしカウンターと囲が裏、和室。なじみの板前さんを招き、すしパーティを聞くことも。左手の水庭の飛び石を伝って入る特別な空間。撮影協力= XEX ATAGO GREEN HILLS / tempura & sushi An



背の高いオフィスビルや集合住宅に囲まれた都心の住宅。道路に面した側は閉じてプライベートを確保し、空間を縦に伸びやかにつなげることで、開放感を生み出しています。

一階の玄関に入ると、二階のリビングとダイニングキッチンの吹き抜けのガラス壁へと視線が移り、さらにガラス壁を伝う水が地下二階への縦の広がりを感じさせます。二階のリビングルームは、高窓からの光が降り注ぐ、二階の吹き抜けの大空間。吹き抜けに面した三階の書斎のガラス壁が、空間にさらなる連続性を与えるとともに、書斎で作業する人とリビングでくつろぐ人が、お互いの気配を感じられる距離感に。L字形に配置されたリビングとダイニングキッチン、兩

方に面した中庭が、内と外をつなぎます。アウトドアキッチンが備えられ、第二のダイニングとしても活躍する中庭は、室内にいながらにして外の広がりを感じられる、このフロアの中心的存在です。

こうした空間から得られる開放感に加えて、安らぎをもたらすものとしてご主人のOさんの希望によって採用されている要素が、火と水です。リビングルームに設置したバイオエタノール暖炉と薪の暖炉、玄関や中庭に置かれたポータブル暖炉のゆらめく炎が、リラクゼーションの源に。また、ダイニングに面したガラス壁から地下二階へと流れ落ちる水景により、周辺の天井や壁には水紋がゆらぎ、かすかに聞こえる心地よい水音とともに、忙しい日々の緊張を解きほぐしてくれます。



上・中庭からダイニングキッチンを見る。アイランド型キッチンのワークトップにカウンターテーブルが並び、ダイニングテーブルがL字形に伸びる。家族で過ごす週末のひととき。キッチンには厚さ25^{mm}の鉄板を導入し、親しいシェフを招いて鉄板焼きパーティーを開く際の使用をそう。下右・ダイニングのガラス壁を伝う水。日光や照明によって壁や天井に水紋が映る。下左・エントランスのドアを開けると、広々とした駐車場が、そこにもバイオエタノール暖炉が置かれ、炎がゲストを歓迎する。



火と水が暮らしに
安らぎをもたらす

「吹き抜けの中央を水が伝って壁の裏まで落ち、浄化槽を通じて循環する仕組み。ダイニングに面した壁をガラスにしたのは、ご主人のアイデアだそう。」

遊びと暮らしを七層に積み上げる



6階の露天風呂。住宅地との境の商業地に位置するため、ここまで上がると眺望が開ける。建築前に設計の板橋さんとOさんとで高所作業車に乗ってこの高さの眺望を確認したそう。



石・キッチンから中庭を見る。グリーンウォールが周囲からの視線を遮っている。右に置かれた若木は熊本から取り寄せた桜の苗木。春が楽しみ。アウトドアキッチンと「デドン」のダイニングセットで、バーベキューを楽しむ。左上・地下1階の和空間へのアプローチ。水庭の飛び石を越えると、左手にすしカウンターが。振りごたつ式の圓形裏テーブルは床レベルまで高さを下げて板の間としても活用可能。左下・5階のジム。螺旋階段で6階のバスルームへ。



この家建てるにあたり、Oさんには、家で、したいこと。がはっきりとありました。多忙な仕事をこなしながら設計期間に一年半ほどかけ、じっくりと家づくりを楽しんだといいます。地下のすしカウンターや開け裏、二階キッチンの鉄板といった高級店顔負けの設備は、仕事柄外食も多いOさんが親しくする料理人を家に招き、気の合う仲間と二階に楽しみたいという思いから。三階のプライベートルームには、愛犬ルイちゃんのためのドッグランスペースも設けました。そして五階にはジム、六階にはジャグジーのビューバスと露天の岩風呂のほか、岩整浴の個室も。すべて設計段階からのOさんの希望です。

「こうした設備は次第に使われなくなることも多いのですが、すべて使いこなしていただいています」と「アーネスト・アーキテクト」設計部長の板橋友也さん。「露天風呂は1、2週間に一度、週末に入っています。暖房は、設計当初はパイオエタノール暖房のみだったのですが、お願いして薪の暖房も入れていただきました。火のつけ方も次第に慣れてきて、楽しいですね」とOさん。

設計はご主人の意見が全面的に取り入れられていますが、エントランスやLDKのインテリアはご家族の好みを反映し、壁や床などを明るい色合いに。各階のお手洗いは、ご家族それぞれの意見で、一つずつインテリアが違おうそう。家の中でも外でも精力的に活動し、楽しむご主人を中心とした、仲のよいOさんご家族のライフスタイルが反映された住まいです。